

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
○「元気いっぱい やさしいいっぱい 知恵いっぱい」の児童の育成	1 元気いっぱい ……①家庭との連携による「早ね・早起き・朝ごはん」②効果的な保健指導 ③教科体育の充実 ④体力づくりの推進 ⑤ねばり強く取り組む子どもの育成 2 やさしいいっぱい……①互いを認め合い、思いやりのある言葉かけ ②人権学習「心の教育3点セット」 ③特別活動の充実、縦割り班活動、交流教育 ④生活のきまりの徹底 3 知恵いっぱい ……①基礎・基本の徹底 ②校内研究の充実、TT少人数指導、ICT活用教育の推進 ③読書時間の定着、家族の推進 ④家庭との連携による学習習慣の定着 ◇地域とともに ……①授業等の公開、情報提供、HPの充実 ②問題事業に対する親身な対応 ③地域行事への理解と協力 ④学校評価の実施と結果の活用

達成度

A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価									
①元気いっぱい									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	・体力づくりの推進、教科体育の充実 ○食育の充実 ・効果的な保健指導、治療率向上	・外遊びを呼びかけ、健康で元気な体作りを推進し、1週間の総運動時間が60分未満の児童を0%にする。 ・食の大切さに対する保護者や児童の意識を高める。 ・全学年で、朝食の喫食率と衛生面の管理（はんかちの所有、つめを切る等）ができるように85%以上を目指す。 ・健康診断結果にもとづき歯の治療率を80%以上にする。	・新体力テストやさがんキッズ体力アップカードを活用し、外遊びや体づくりについて指導する。 ・家庭科や総合的な学習の時間において、栄養教諭等を招いた授業実践や講話を行う。 ・試食会などの、PTAと連携した取組を行う。 ・朝食の必要性を保護者に伝え、各学期に一回は朝食の喫食調査をし、実態を把握する。各学年に応じた衛生の指導を行い、保護者にも行った指導内容を伝える。 ・歯科衛生士と連携した保健指導や歯や口に関する情報の提供、治療の状況確認を定期的に行う。				保健部	松尾和野中
特定課題	・家庭の教育力向上	・家庭との連携による学習習慣定着 ・テレビやゲームの時間 ・早ね、早起きの習慣	・家庭と協力し、児童の生活向上をめざす。 ・早寝・早起き・朝ごはんの充実を回り、テレビ・ゲームの約束を決めた家庭の割合が80%以上になるようにする。 ・進んで気持ちのよいあいさつ、はきはし返事のできる児童の割合が、全校児童の90%以上になるよう日々指導する。	・家庭訪問、懇談会・教育講演会や学校・学級便りを通して、家庭における生活習慣の向上をめざす。 （毎月第1週目に「生活計画表」で点検する。） ・学校だよりやPTA役員会などを通して、家庭への啓発を図る。 （毎月1日～の1週間をノーテレビ・ノーゲームデーに設定する。） ・家庭での約束を決め、毎月実施し、カードに記入する。 あいさつや返事の指導は、学校での指導とあわせて行うようにする。 （生活のふりかえりカードは、各学年で評価基準を定めて実施する。）				生活部	北原森元
②やさしいいっぱい									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	・学年、学級経営	・学級目標の達成 ・支持的風土の醸成 ・特別活動、学級活動の充実	・学級目標を達成させ、楽しい学校・学級作りを進める。 ・学級経営の柱に、一人ひとりのよさを大切にしたい支持の風土づくりを取り入れる。 ・特別活動（学級活動）を工夫し、みんなの活動が楽しいと思える子どもの数を増やす。	・学級目標の具体的な事を、学期ごとに達成できているか児童とともに振り返り、改善を行う。 ・各学級で児童のがんばりを認め賞賛し合う場を設ける。 ・各学級で「仲間」を意識できるような学級活動や集いを仕組む。				管理運営 特活	堤川窪
教育活動	●心の教育	・道徳教育の充実 ○心の教育3点セット（「いのちの教育」「伊万里っ子くさ」「伊万里市童謡歌集」）の活用 ・きまりを守る児童の育成	・道徳と各教科や領域を関連づけ、効果的な指導を進める。 ・道徳や朝の会などで、心の教育3点セットを活用する。 ・廊下は右側を歩き、元気なあいさつや返事をする児童の割合が、80%以上になるようにする。	・道徳教育全体計画を作成し、各教科や領域と関連づけた効果的な指導を行う。 ・道徳の評価についての研修を深め、効果的な評価を行う。 ・道徳や学級活動の時間に、心の教育3点セットを計画的に取り入れる。 ・廊下の歩行、あいさつや返事について、朝会や学級での指導を随時行う。				道徳教育 コーディネータ	松尾輔市丸
教育活動	●〇いじめ問題への対応	・人権・同和教育の充実	・こころのアンケートで、「学校が楽しい」と答える児童の割合を80%以上にする。 ・互いのちがいを認め合い、人権を尊重し、思いやりのある児童を育成する。	・こころのアンケート等を毎月実施し、児童の心の状態や人間関係の様子を詳細に把握する。 ・言葉づかいのアンケートを随時実施し、児童の人を傷つける言い方・言葉を減らし、思いやりのある言い方・言葉を増やす。 ・人権意識を高めるために、学期に一度人権教室を行う。				児童生徒支援	北原森元野中（山口）
教育活動	○特色ある学校づくり	・縦割り班で異学年交流体験 ・豊かな体験活動 ・地域の人・もの・ことから学ぶ	・縦割り班（のびのび班）の活動を、共進や情報・給食の時間などに意図的に仕組みながら交流をすすめる。 ・全学年で、総合的な学習の時間や生活科など、地域を素材にした単元作りや地域のグスタティーチャーから学ぶ授業作りを行う。	・のびのび班のリーダーに役割を持たせ、主体的な活動になるよう計画表を作らせる。 ・地域の学習素材や人材マップを作成し改善を加える。 ・毎月、お世話になった方への感謝の会を実施する。				特活部	石橋川窪
特定課題	・特別支援教育	・支援体制の整備 ・ケース会議での情報共有 ・通常学級に在籍する児童の支援	・児童の正確な実施把握をする。 ・特性を持った児童や個別に支援が必要な児童の共通理解を進める。	・教育相談の時間の中で情報交換をする。効果的な支援の方法を探る。 ・講師による個に応じた指導のための校内研修会を実施する。 ・就学指導が必要な児童に対する対応は、特別支援〇〇を中心に計画的に実施する。				特別支援教育	吉松小島

③知恵いっぱい									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●志を高める教育	○夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・発達段階に応じた系統的・計画的な教育活動を展開する。 ・学校や家庭、地域等と連携した教育活動を展開する。 ・将来の夢や決意を保護者等の前で発表する機会を設けることで、希望や意欲をもって今後の生活を送っていくとすることを育むことで志を掲げさせる。	・「自分がしたいこと」「自分ができること」「社会が求めていること」の視点を設け、取組の明確化と教育活動の充実を図る。 ・職場見学、体験学習等を学校外の機関と連携して行う。 ・10歳を迎えたことを記念して将来の夢や保護者への感謝の気持ちを発表する「1、2歳人式」を行う。 ・実行委員形式の運動会を開催することで夢や目標を考えさせる。				教務全般	松尾暢 (山口)
教育活動	●学力向上	○授業と家庭学習とのつながり ○基礎基本的技能を高め、思考力・表現力を伸ばす。 ○IT少人数指導、個に応じた指導 ○ICTの利活用教育の推進 ・読書習慣の定着、家読推進	・校内研等で授業とつながる効果的な家庭学習について検討していく。 ・全国学力検査、学習状況調査において、思考を要する問題の無回答を減らす。 ○一人ひとりに応じた指導の更なる充実を図る。 ・ICT機器を1日1回以上は活用するようにする。 ・児童や保護者への情報モラルの指導・啓発を行う。 ・毎月第3日曜日「家読の日」における家読実施率を80%以上にする。	・学習状況調査の分析を行い、大川小の児童の苦手とする内容を補うような家庭学習の出し方を工夫する。 ○チャレンジタイムの時間に読み・書き・計算の定着を図り、思考力・表現力を伸ばす目的で活用問題やB問題に取り組ませる。 ○学年の実態に応じて、算数科の重点単元を中心に習熟度別指導を実施する。 ・電子教科書を日常的に活用できるよう、環境整備や活用法の研修会などを行う。 ・PTAと連携してインターネット利用における「家庭教育宣言」を策定し、保護者や児童への啓発を行う。 ・PTAと連携し、家読の日にあわせて「家読レポート」を各家庭で書いてもらう。				学力向上対策CO 指導法改善 ICT利活用 図書館教育	市丸 北原 峰 川窪
特定課題	・教職員の資質向上	・言語力の充実を目指した校内研究 ・校内研究の他教科領域への活用 ・校外研修への積極的参加	・一人一回研究授業を行う。 ・どの教科においても考えを交流する時間を取り入れる。 ・一人一回は、校外研修に参加して研鑽を積む。	・12月までに研究授業を全て終了し、事後研究会を必ず行う。 ・どの教科においても考えを交流する時間を設定する。 ・国語科を中心に、教育センターの講座や研究発表会など、それぞれが力を入れたい内容を選択し、進んで参加する。				研究主任 管理運営	石橋 堤
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	・開かれた学校	・教育目標の周知と理解 ・情報の提供と共有 ・地域の教育力の積極的活用 ・学校評価の実施と結果の公表	・教育目標や重点目標の周知を進め、理解度を100%に近づけるとともに、学校だよりや回覧板、ホームページなどを使っての情報開示の頻度を高める。 ・教育実践の中間評価を行い、その後の指導に生かす。	・学校だよりを回覧板用にも配布し、地域の隅々まで浸透させる。 ・HPの開覧率を上げて情報共有が進むようにする。 ・評価項目の到達度を担当者に意識させながら、学期ごとに中間評価と改善が進むようにする。				管理運営	墨谷 堤 松尾暢
学校運営	○危機管理	○通学路の安全点検及び安全指導 ○食物アレルギー等への対応 ・個人情報保護の徹底	・安全指導や安全点検を、関係機関と連携をとりつつ効果的に実施し、保護者のAB評価を80%以上に高める。 ・食物アレルギーのある児童の把握と当該児童への適切な対応を図り、事故「0」とする。 ・危機管理や個人情報に対する職員の意識を高めるために、詳細な情報提供や実地研修を行う。	・抜き打ちの訓練や点検の方法を試しながら、危機意識を高める。 ・警察や消防、教育委員会との連携を進めノウハを審議する。 ・食物アレルギーを持つ児童の保護者と定期的に打合せの機会を設け、情報交換を行う。 ・食物アレルギーを持つ児童の情報を全職員で共有する。 ・保護者の個人情報保護やサーバーのセキュリティを高める。				校務・管理	堤 野中
学校運営	○幼保小中連携	・東陵中学校校区での共通の取り組み ・大川・松浦小学校6年生の交流会・中学校体験入学 ・保育園・幼稚園との定期的な情報交換 ・大川保育園園児と小学校の児童の交流	・東陵中学校校区での研修を通して、幼・保・中との連携を進める。 ・松浦小学校との交流を通して、スムーズな接続を実現する。 ・保育園との交流を計画的に進め、スムーズな接続を実現する。	・年に3回の人権・同和教育の研修や、共通教材の授業実践で連携を進める。 ・中学校入学前に、松浦小学校の児童と交流や、中学校の授業体験を行う。 ・保育園への訪問で情報交換をし、園児の実態を把握する。 ・保育園訪問や、園児の来校を促す行事や単元計画を設定する。				低学年 高学年	市丸 森元 (山口)
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○教職員全体の働き方改革に関する意識改革に資する具体的な目標を設定する。	・勤務時間の適正化を行う。 ・能率性・有効性を意識して職務に当たる。 ・管理職は働きやすい職場づくりに努める。	・毎週、金曜日を定時退勤日として、全職員が定時に退勤できるよう心がける。 ・限られた時間で児童の要望を可能にするために、仕事に優先順位をつけて職務にあたる。 ・管理職自らが、職員が勤務上の悩みや相談しやすい環境作りに努める。 ・管理職自らが、定時退勤や業務の効率化に努める。				管理運営	墨谷 堤
4 本年度のまとめ・次年度の取組									

●は共通評価項目 ○は市の共通評価項目 ・は独自評価項目